

十七、体操

五分九秒

十八、綱引

三十六秒

赤勝

十九、プロネード

八分十九秒

七十

◎卒業してよりの三年と

八ヶ月

島根縣松江市 湯川 たき

幹事の方から何か書けといふ御通知を頂きましたのは餘程前の事で、其時には何か書いて見たいと思つて直に御受けする旨をお答へしてから最早幾日になるでせう。何でも此十一日頃迄にといふ事が頭の何處かに印されてゐましたので今日は十日、どうしても今晚と心に思ひました。が、明後日は學校で講演會を致します其準備等に追はれて今日も暮れてから歸つたといふ始末、それから今日未だ見なかつた新聞を見て日

誌をつけたら十一時になつて終ひました、疲れた頭でいつその事御断りしようかとも思ひましたけれども、矢張り書きたくつて書きました。此は私が卒業後今日までの生活状態の主なるものだと自分で只そう思ふだけなので御座います。極めて主觀的なつまらないものですけれども、同じい趣味の諸姉に見ていたゞ事が出来たら満足いたします。年度を別けて記してまゐりませう。

明治四十三年度

卒業の當時自分の生活の大なる變化に心を奪はれてをる私には、何事も珍らしく不思議でございました。今迄知らなかつた多くの職員と一緒に生徒を教へてをること、先生とよばれる事、俸給日に鼠色の状態にお金を入れて貰ふこと等一として變な氣のない事はありません。そして現在が虚で過去が事實の様な氣がして、母校師友の痛切なつかしさは殆ど一大苦痛でございました。「一つの野邊に育ちし雲雀」「感謝」「ゆきませ」等の唱歌がいつも胸中に往來してゐ

て、日毎に生徒の唱ふ聲を聞いたり、体操遊戯

を見たりするにつけても又ふと小學校兒童の無邪氣な歌が聞えるにつけても、直ぐと胸を貫く様に感じました。來たばかりの時に櫻蔭會員は私の外に三人もあつたのでございましたが、それでも私の心は寂しう御座いました。何時でしたか私が四年の時のお室で一年でもあつた笹原様から春の郊遊會でしたかで稻毛からなつかしい先生の御筆まで添はつての愛らしい御便りを頂いた時には、嬉しいと思ひながらほんたうに泣きました。ごかくする中に學年末にもなつて、卒業式をせねばならぬ時が参りました。式には矢張り感謝を唱ふので御ざいますもの、あゝ此時の心持は御想像に任せます。けれどもそれより私にとつて一層悲惨でありましたのは、寄宿舎の送別會に臨んだ時でございました。どうしても生徒を送り出すといふ氣になれず、自分自身が生徒の様で、しかも同級其他の友もなく先生の影さへ見えぬのに、泣かすにはゐられないではありませんか。極りが悪く俯いてやつとす

ませました。

明治四十四年

夏休みに講習に出ました事、何ともいへぬ嬉しい事でもございました。殆ど休み全体を東京に暮しました。其間に御めにかゝつた先生や友達には、勝手なことを一年間の溜置を一時に口に出しました。さぞ御迷惑であつた事と思ひます宿つてゐた家は四谷で講習は大學でありましたから、遠い上によく大雨に降られましたけれども、そんな事ちつとも嫌に思ひませんでした。講師は佐々先生で同級からは三人だけしか來てゐませんでした。友達の話聞きますと私の生活状態は大へんな相違で御座いました。皆本氣になつて自分の生徒の自慢教育の樂教授法の研究談などで到底側へも寄りつかまされせぬ。私は顧みて恥ぢ且恐れ且何となく心細くなつてまゐりました。併し在京中を通しての賜は私の鈍い頭を刺戟して私を稍大人にした事でございました。御蔭で今年の卒業式や送別會には、さ程私の心は悼しくはなく、少しは出て行く生徒

七十一

の將來なども思つてやる事が出来ました。
明治四十五年度—大正元年度
一月七日お正月早々に岩崎文子の死にあひました。同級の中でも快活無邪氣であつた友、あの元氣であつた友、あゝ私は殆ど當惑いたしました。心が破れて終つた様に感じました。此心の負傷は永久に取り去る事の出来ない悲しみで御座います。併し友の死を思ふと同時に私は非常な力強い教訓を思はずには居られません。あゝ其在世中隔てなく遊んでる中にも遅鈍の私をどんなに引き立て、行つたでせう。何處かへ出かける時などに、自分はどうつくに支度をして早く早くと明瞭した聲で私を呼んだのが嗚呼今も耳に響きます。生先長い命をあゝ其教育の仕事をと思ふと私はこれから二人前働かねばならぬといふ氣がいたしました。此年はどうした事でしょう。七月十九日中谷むね子がまた亡くなりました。優しい穏かな風姿に再びあへぬ事が實に悲しいではありませんか。嗚呼卒業の曉嬉々として櫻花の下蔭を勇んで赴任の途に上るべく懐し

い校門をふりかへりふりかへり出て行つた十九人中、最早二人は何時迄してもまた廻り逢ふ事は出来ないのかと思ふとたまらなくなりまして。
さて學校の三人の櫻蔭會員は一人は私の赴任後間もなく御轉任、明年年には思ひがけなくもかなしい死別の目にあひました。越えて此年の九月には唯一人の方も御轉任になりましたので、もう全く私一人ぼつちになりました。それに反して學校の用向はどん／＼増すばかりで御座いますが、それでも校内の様子がだん／＼とわかつてまゐりまして、楽しく自分の業に服する事が出来るやうになりました。此の幸福は卒業後三年で始めて私に得られたので御座います。美しく思つた胸中もやつと推察する事が出来ました。人の一年ですることは三年もかゝつてする等は、何だか諺めいてますが實際だからいたし方がありません。鈍い自分に今更腹も立たず却て誰にともなく感謝の念が起つて來ます此あたりが私の最も吞氣な點でせう。

三月には私が三年四年と受持つた級の生徒が卒業いたしました。茲に始めて子を以て知る親心を味ひました。此一ケ年に起つた近き周圍の人々の死、職員の変更、受持の生徒の卒業此等の出来事は私をして餘程眞面目にさせました。
大正二年度

夏休みにはまた嬉しい希望を抱いて講習に出て参りました。今年は寄宿舎にゐましたので、よけいに多くの人々に逢ふ事が出来ました。此様な嬉しいことは御座いませんでした。只再びと約して其まゝにお別になつた方々が御座いましたのは實に遺憾で御座いました。同級生には三人逢ひました。随分と楽しい思をいたしました。講習の先生は關根垣内倉橋先生のお三人で御座いました。目下二三年の作文略二百人許を受持てゐますので、お習ひした事を早速應用したいと試みてをります。生徒も私もお蔭様で興味が増してまゐりました。
終に臨みまして學校での私と周圍との交渉を聊か申上ませう。前にも申上げました様に、只今

櫻蔭會員の方は他に一人もございません。職員は十七人男女數は半分々々で御座いますが、大概檢定出の方で今尙受験準備の方々もたくさんに御座います。此んな譯でか田舎の割合に熱心に研究してゐます。時々人々から地歴等の質問を受けますが、大概は私にわからぬ事若くは忘れた事などで其人達にお氣の毒に思ひますが、答へられないので極りが悪いなどの感は殆どいたしません。けれども其度に在學中にも少しやつて置けばよかつたと思ひます。
生徒に對して眞面目に教へ様とするに餘程心の用意が入ります。第一自信と勇氣が必要だと存じますが、實に其源は確實な知識に存する事が多いと思ひます。私は生徒を思ふと勉強しなければならぬといふ氣がほんたうに出てまゐります。又ほんの假令少々づゝなりとも進むといふ事は退く若しくは一所に停滞してをる不快に較べて如何にも嬉しい事實だと考へますので、漢、英、國等ほんの少しづゝ勉強いたしてをります。

此頃職員會議などで私の申す事がだん／＼多くなつて來ました。様子が少しわかつたの自分
の仕事が漸く手についた爲だと存じます。私は
只今卒業後四年目で少し落ちついた氣分になれ
ました。或時此事を隣席の方に話しますと「ほん
たうにそうで御座いませう。此古い私どもでも
矢張り事毎に未ださしつかへる事が多くて困り
ます。授業などは一つ學科を五年もすると教案
が先づ緒につくと思ひますよ」と申されました
謙遜なる眞面目なる其語には實に敬服いたしま
した。此方は二十年以上も教育に従事なすつて
然も今尙日々に新しい研究をつんで行かれる珍
しい方で御座います。十年以上勤務の方々も未
だ外にたくさんにあります。此等の人々の上席
に居る私は考へれば慚愧の至で御座いますけれ
ども、せめては心だけでもまげぬ様に熱心をつ
づけてゆきたいと存じます。周囲の人々は皆な
つかしい方々で經驗の淺い私は此人々によつて
助けられ愛せられて楽しく暮してゐます。
生徒は活潑に柔順に又何事も打あけて便る様は

折ふし涙の出るほど可愛く思はれます。殊に卒
業生の何時迄もなほ教を請はんとする有様や
親密な情愛や事ある時毎に相談しに來るなどの
無邪氣にも愛らしい仕打にはほんたうに、如何
したらば報いる事が出来るだらうと思ひます。
時々此自分の生徒によつて母校の先生方に對す
る生徒としての私を深く顧みさせられます。
先生方の御蔭で赴任以來兎に角見つともなくび
く／＼する様な事もなく、心の底に教育的觀念
を宿して、さしたる不安もなく微少なながらも教
育の業につくして行つてゐるといふ様な氣のす
るのには、私にとつて非常の幸福だと思ひます。只
今私の任務は、正科の外にマッサージ係通學生
の監督學友會講演部の世話等が御座います。懐
しい方々に手紙をかきたい心さへ抑へねばなら
ぬ暇なしの生活にも、幸心身の健康の爲愉快に
元氣よく暮してゐます。此私の健康私の元氣
の源は何處でもありません。偏に先生方の御教訓
と友から得る力とに依るものと私は確信いたし
ます。ほんたうに私は感謝いたします。最後に
私の現狀を極縮めて言つて見ませうならば、私

は多忙と感謝の生活路上を走りながら、時々一
寸止つては忽師友を戀ふる情が滾々として湧き

出る甘い心の泉にからだを浸してゐますと申し
たいので御座います。(大正二年十一月十日記)

— 否むしろ、吾人は奇なる一事實を認む。

國際間或は種族間に於て、一國家或は一種族が、他國家或は他種族に對して所謂道德的行動をなす
時は、之がために却つて其の國家その人種を衰滅せしむることあり。キッドは「社會進化論」の中
に曰く

「アンゲロサクソン」の正道正路を踏み乍ら、その接觸せる劣等人種を滅すこと、他の強暴なる國
民と異なるを見ず。そは兵力に訴へ硝煙を注いで、之を滅盡するに非ずして只々優勝劣敗の理數に
よるのみ。

吾人は往々己の良心に顧みて即原人種の衰滅を以て、或は開明人の非行に基くものなきかを疑
ふ。焉ぞ知らん、原人種の衰滅し行くは全く文明人の非行に基くものに非ずして、却つて其德に基
くものたることなり。吾人が泰西文明の特色として、揚々之れを讚美するもの、往々にして其の結
果の惡に類するを見る也。吾人は「ニューシラランド」の原人種に關する人類會の報告をよみて、
轉々思ひの零々たるものなくんば非ず。曰く

「ニューシラランド」原人種の衰滅は、飲料疾病洋服平和富有に基く。
之を讀みて驚くもの、豈キッドに限らんや。「アンゲロサクソン」が輸入したる平和と富有とが此
の人種を衰滅せしむる一因たりしと云ふに至つては、奇も亦極れり。(中略) 而も吾人が所謂道德
も亦主我心の發現なるを知らば、人種間に於ける道德てふものが時に生存競争の武器と、同一の結
果を生ずるも、未だ必ずしも解し難きことに非るべし。

野明敏治(國民教育原論)